

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成30年1月12日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、お手元の広報日程に基づきまして、私から補足説明を申し上げます。

まず、1ページ目、2. (1)、1月12日、本日、現在行われております審査会合でございます。こちらは議題といたしましては、東北電力・女川原子力発電所につきまして、基準地震動の年超過確率につきまして説明をお聞きするという予定となっております。

続きまして、1月16日、(3)平成29年度第2回政策評価懇談会の開催が予定されております。こちらの議題は「平成29年度実施施策の事後評価に向けて」ということでございます。

この政策評価懇談会につきましては、例年夏に開催されまして、政策評価の事後評価について議論いただいているというところでございますけれども、今年度につきましては、夏に行われる事後評価に先立ちまして、今般、会合を開きまして、規制委員会の5年間の取組なども踏まえまして、政策評価について幅広く議論いただき、助言を頂くということを予定しているものでございます。

続きまして、2ページ目、1月18日木曜日、(5)の審査会合でございます。こちらは議題といたしましては、東北電力・女川第二原子力発電所につきまして、防潮堤の設計方針について説明を聞くということを予定してございます。

なお、1月19日金曜日、(6)第139回放射線審議会総会の開催が予定されておりますが、議題については未定でございます。議題の詳細が確定次第、御連絡をさせていただきます。

私からは以上でございます。

### <質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。すみさんから。

○記者 共同通信のすみです。明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願

します。

先日、更田委員長以下、皆さんでまた福島の方に行かれて、首長さんたちと意見交換をされてきたと思うのですが、そのときに1Fの汚染水、トリチウム処理水について、今年中に決定しろというようなことをおっしゃったようですが、これについて規制委員会、東電、経産省等々で何となく話についてはいるのですか、スケジュール感とかは。

○大熊総務課長 今、御質問の中で話がございましたように、更田委員長ほか、田中前委員長と一緒に昨日から今日にかけて福島の被災地の市町村、今回は町村でございますが、回って首長さんと意見交換をしているというところでございます。

その中で、今御質問いただきましたトリチウムを含む処理水の処理についても話題に出たということは、報道も含め、承知しております。これまで御案内のとおりですが、私ども原子力規制委員会としては、処理済の処理水については、希釈して放出するのが技術的に見て唯一合理的な手段という考え方を一貫して持っておりますし、また、その貯蔵できる年限にも限りがあると、早期の判断が必要だということも申し上げてきている。そうした従来からの考え方が議論の中で出たということだと承知しております。

質問に直接お答えすると、特に何か議論が進んで今回議論されていると、関係者の間で議論が行われて、今回の話につながっているということではないと承知しています。

○記者 私は直接聞いたわけではなくて、現地からの報告を聞いているだけですけれども、更田委員長の言いぶりとしては、今年中に決めなければ駄目だということを言っているのですというようなことを地元の首長に説明されたそうですけれども、今年中に意思決定をしろと。希釈して海洋に放出するということを決めなさいよというようなことをおっしゃられたようですが、これはそれこそ東京電力が決めることなので、東京電力に言わないと意味がなくて、こういうふうにしろと言っているのですよと地元の首長さんに言ったところで、別にそんなに意味がなくて、東京電力にそういうことは言われているのですか。早くやれ、早くやれというのは従来から言われていますけれども、年限を区切って、今年にやらなければ駄目だというのは初めてだと思ったのですけれども。

○大熊総務課長 東京電力との関係で言えば、これも御案内のとおり、先般の柏崎刈羽の審査に際してもそうした議論を行い、福島の1Fの問題に正面から向き合って対応するよというように求めてきている。これは御案内のとおりでございます。今回は福島の地元を訪問して首長さんと話をする中で、規制委員会としての考え方が意見交換の中で出たということだと理解しております。

○記者 今年中というような年限を区切るような発言が初めて平場であったと思うのですけれども、今年中にやりなさいよということは、当然、東京電力にも言っていて、今年中にやらなければいけませんねという共通認識がお互いできていて、それを踏まえての御発言なのか、ただちょっとその場で盛り上がったので言ってしまったのか、どちら

なのですか。

○大熊総務課長 その場に私も同席しているということでもありませんし、詳細な雰囲気を含めて、つまびらかに承知しているということではないのですけれども、従来からタンクに貯蔵し続けられるのが残り2～3年程度であると。それから、また、希釈して放出するにしても、準備に時間がかかるということは明確に分かっていて、そうしたことはお話をしているわけで、そのことを表現するときにそういう言い方として発言があったのではないかと理解しています。

○記者 では、余り今年中にというのは深い意味はないのですか。逆算したらそれぐらいだから、そんなふうには思っているのですよという、ちょっとふわっとした話なのか。

○大熊総務課長 繰り返して恐縮ですが、現地に同席して一緒に委員長と議論をしているわけではございませんが、現時点で私としてはそのように理解をしております。

○記者 そのようにというのは、ふわっとした話ですという、そういうことですね。

○大熊総務課長 従来から認識をしている期限があって、早急に決めていく必要があるということを今回の議論の中ではそのように表現したということだろうと思いますけれども、委員長自身の今の意識、考えについては、機会があれば、また直接お聞きいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、ほかに御質問のある方。

○記者 朝日新聞のヒガシヤマでございます。

政策評価懇談会なのですかけれども、これは第2回とありますけれども、今年度の中で2回目なのでしたか。

○大熊総務課長 先ほどの私の説明を含め、分かりにくくて申し訳ございません。29年度で区切りますと、29年度の夏に1回開きましたので、2回目という、計算上そうなります。ただ、政策評価についての議論の固まりとしては、29年度の政策の事後評価というのを、次の夏、30年7月に行うと。それに先立っての議論という位置付けで今回開催するという意味では、むしろ30年度の懇談会に向けた議論というつながりになるということでございます。

○記者 なので、この夏というか、去年の夏に開かれたいわゆる第1回というのは、その前の年度のやつ事後評価をやったやつであって、今回のこの第2回の懇談会というのは、今年の夏、今年度の事後評価をやるものを先取りして議論をするということですね

○大熊総務課長 はい。

○記者 いわゆるこういうものをやるというのは初めてということでしょうか。

○大熊総務課長 従来、通例、毎年1回の議論ということをやっておりましたので、そういう意味では新たな取組というか、方法になります。

今の御質問も含めてもう少し補足説明をさせていただくと、28年度の施策についての事後評価を今年の夏に開催しました。29年度の第1回の懇談会でございます。その際に

懇談会の議論の中で、年に一度だけ議論するのではなくて、もう少し議論の機会があってもよいのではないかと、あるいはまた、その年度の政策評価についての議論だけではなくて、もう少し中期的な政策の流れも踏まえながら議論していくという機会があってもよいのではないかと、そういった趣旨の議論があったことを踏まえまして、30年度の政策評価の懇談会に向けては、このタイミングで一度懇談会での議論をお願いしようということになったというものでございます。

○記者 具体的なテーマとしては、規制委発足5年というのを振り返ってという話になるということですか。

○大熊総務課長 幅広く御議論いただくということで考えておりますけれども、前回の懇談会の中でも、5年間の議論を振り返ることも踏まえながら議論してもいいのではないかとといったようなやり取りもございまして、そうしたことも踏まえて、5年間の取組といった内容について御説明し、御報告し、幅広く御議論、御意見を頂くということで開催するというを現時点では予定しております。

○記者 ちなみに、いわゆる委員の方が伴さんと更田さんで、長官以下規制庁側が3人ということですが、残り3人の委員の方は出ないとしたものなのはあるのですか。

○大熊総務課長 出席者ですが、今御指摘のように、資料にもございます更田委員長、伴委員、また長官、次長、技監ほかということで考えております。これは委員会の会合ではございませんので、委員が全員という形は考えにくいところでございますが、従来、政策評価懇談会、通常は事務方のみ、長官以下で実施をしていたところですが、過去を振り返りますと、規制委員会発足後に当初開催した際には、当時の田中委員長、あるいは大島委員だったのでしょうか、委員が2名程度出席して開催したということもあったというようなことがございまして、そうしたことも踏まえて、今回、幅広く御議論いただくに当たって、このような形での開催を行うことになったということでもあります。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

ないようであれば、本日のブリーフィングは以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

—了—